

平成18年度 第1回 奈良県公共事業評価監視委員会 議事概要

1. 日 時 平成18年10月27日(金) 9時30分～11時30分
2. 場 所 奈良県経済倶楽部 大会議室
3. 出席者
・委員 (敬称略)
伊藤 忠通、前田喜四雄、柳谷 勝美、藤次 芳枝、仲川 順子
朝廣 佳子、三野 徹(欠席)

4. 議 事

(1) 奈良県公共事業評価監視委員会について

- 1) 平成17年度 第3回委員会議事概要の確認
- 2) 平成18年度 再評価等対象事業の一覧の説明

(2) 街路事業の再評価について

- 1) JR奈良駅付近連続立体交差事業の再評価資料の説明
- 2) JR奈良駅付近連続立体交差事業の再評価に関する審議
各委員から次の事項に関して質疑、意見等があった。

鉄道高架化に伴う騒音、振動の発生が考えられるが、その対策等について地域住民への説明等はなされているのか。

事業全体の説明は、地域住民に対して実施している。事業実施後の騒音、振動等については、個々に対応及び調査し、説明を実施している。

奈良の玄関口としてふさわしい整備を図るためにも、県と奈良市が共同、協調して実施する必要があると思うが、県としての考えはどうか。

県及び市が共同で勉強会を開催している。街路事業についても県、市だけでなく地域住民(自治会)や経済界も交えて検討を進めているところ。

本事業は、奈良の経済効果に寄与するものと期待している。

第二阪奈道路等、県内のアクセス拡充は今後どうなっていくのか。

全体の交通ネットワークを踏まえ、大宮道路や三条道路など大規模な整備を進めているところであり、大阪とのアクセス向上を図る。

全体事業費約450億円の今後の見込みは如何に。

できるだけ予算が拡大することのないよう、コスト縮減に努めたい。

鉄道の仮線部分の敷地は買収するのか。また、その費用は全体事業費の約450億円に含まれるのか。

駅周辺部はJRの敷地内。それ以外の沿線部の仮線用地は、高架化により側

道を設置する。このためその用地は取得する。これらの費用も450億円に含まれる。

進捗率45%というのは、事業費における進捗率か。平成22年の完成は大丈夫か。

進捗率は事業費により算出したもの。用地買収に時間がかかったが、計画通り事業進捗を図っていきたい。

未買収地の目処は如何に。

残物件は1件となっており、順調にいけばまもなく解決する見込みである。

ハード面だけでなく、景観や街づくりなどのソフト面についても県と市との共同作業により実施してもらいたい。

3) 意見集約

事業の目的、必要性、効果等を考慮し、継続を妥当とする。

奈良の玄関口として、景観に十分配慮しながら、県市一体となって進めてもらいたい。

4) 街路改良中和幹線(桜井東)の再評価資料の説明

5) 街路改良中和幹線(桜井東)の再評価に関する審議

各委員から次の事項に関して質疑、意見等があった。

観光振興、地域活性化については、JR奈良駅付近と同様に、県や地元市が共同で進めてもらいたい。

周辺の景観に対する配慮については、県としてどのように考えているか。また、名阪国道 針テラスのような道の駅などの設置は検討していないのか。

道路としての機能を確保しつつ、橋脚や中央分離帯などに景観に対する工夫を加える。道の駅については、地元の意向が重要であり、勉強会をスタートさせるということもきいている。

中和地域の活力を向上するためにも、1日も早い完成を期待する。

この道路だけでなく、ランドデザインを実現するため、県全体の都市計画を横断的に取り組んでいただきたい。中和幹線全線は、平成22年に出来るのか。

暫定ではあるが、平成22年には通行できる状態を目指している。

大規模移転物件として市の水道施設の移転がなされているが、事業着手される前には検討されていたのか。

道路の法線、線形は、本道路の機能を考慮して決定している。移転物件は、老朽化している部分もあり、原因者である県が市と協議を行って移転補償を行っている。

他事業の土を流用しているとのことだが。

公共事業による建設発生土は、公共事業間での相互利用の促進を図ってい

る。再利用が出来ない場合は、処分している。

土砂の処分費はどの程度か。

民間処理業者で、土砂 1 m³あたり約1,000円から1,800円程度のようにある。

6) 意見集約

継続を妥当とする。

景観に配慮するとともに、道路新設による土地利用を促進し、平成22年度完成を目指してほしい。

7) 街路改良中和幹線（慈恩寺）の再評価資料の説明

8) 街路改良中和幹線（慈恩寺）の再評価に関する審議

各委員から次の事項に関して質疑、意見等があった。

奈良県及び桜井市という事業主体の区分、予算配分の考え方はどのようなか。また将来は県道となるのか、市道となるのか。

高度な技術を要する区間等は県で、それ以外は市という考え方で区分されている。予算配分については、完成予定である平成22年度をにらんで配分している。また、一つの路線で管理区分がバラバラでは非効率であるので、全線完成時までには道路管理のあり方について検討したい。

桜井東工区と慈恩寺工区の費用便益比（B / C）の違いについて。

桜井東は1.47で、慈恩寺は1.82。

便益（B）はほとんど差がないが、桜井東の方が事業延長が長いことや道路構造が複雑なことなどから、コスト（C）が大きくなるため、B / C値の差が出ている。

事業途中の段階でも、専門的・技術的観点からコスト縮減の検討はなされているのか。

新技術も含め、工法比較等を行ってコスト縮減に努めている。今後も適宜検討を加えながら事業を進めていきたい。

費用対効果はその都度見直しを行い、より一層のチェックをお願いしたい。ただ「安い」だけではだめ。

9) 意見集約

継続を妥当とする。

県事業と同様、地域振興、景観等に配慮してほしい。

(3) その他

事務局から審議内容の確認

平成17年度第3回委員会の議事概要は了解

平成18年度の再評価等対象予定事業を確認

平成18年度第2回委員会の開催日程、対象事業確認